

子どもの安心を生み出すために

～やさしい言葉でかかわり、子どもたちの学びと育ちをつなごう～

上白根地区
上白根幼稚園
土と愛子供の家保育所
上白根小学校

推進テーマ設定の理由

小学校への就学、接続を円滑に行うため、また子どもたちが安心して小学校での学習や生活をスタートできるようにするため、このテーマを設定した。

年度の初めに、幼稚園、保育所、小学校で自己紹介や顔合わせをし、それぞれの園所や小学校の様子から、この地区では、架け橋カリキュラムデザインシートをもとになりたい姿、育てたい子どもの姿について意見を交換して、どのような子どもたちの姿を目指すのか考え、共有を図った。

年長児の子どもたちは、毎年、小学校に進学することが楽しみでもあり、不安でもある、そのような気持ちを行ったり来たりしている様子があることを共有した。

小学校は楽しいところであるということ、幼稚園や保育所で学んできたことをたくさん生かしていける場所だということ、上級生であるお兄さんやお姉さんが1年生の入学をととても楽しみにしていて、困ったときはお手伝いしてくれるとても頼れる存在であるということ、たくさん年長児に知ってもらおうと考え、『やさしいことばでかかわろう』というテーマに設定した。

推進内容

【年間計画】

5/16 第1回推進委員会

5/29 年長児を小学校へ招待 運動会の演技の参観 お土産に朝顔の苗をプレゼント

6/5～ 上白根幼稚園の畑を借りて、さつまいもを育てる →11/20 おいもほり

7/24 第2回推進委員会

9月～ 5年生と幼稚園、保育所の子どもたちとの交流が始まる

10/10 小学校の校庭で土と愛子供の家保育所の運動会演技参観

10/9 上白根幼稚園の畑近くで虫探し

2/5 小学校体験・昔遊びの交流

2/13 第3回推進委員会

今年度の重点課題

～今年度力を入れたこと～

やさしいことばでのかかわりを通して、相手のことを知り、たがいのことを思いやったり自分にできることは何かを考えたりできるようにする。



つながり

・年長の子どもたちと小学1年生、5年生との交流をすることで、来年度の入学時の接続をつくる。



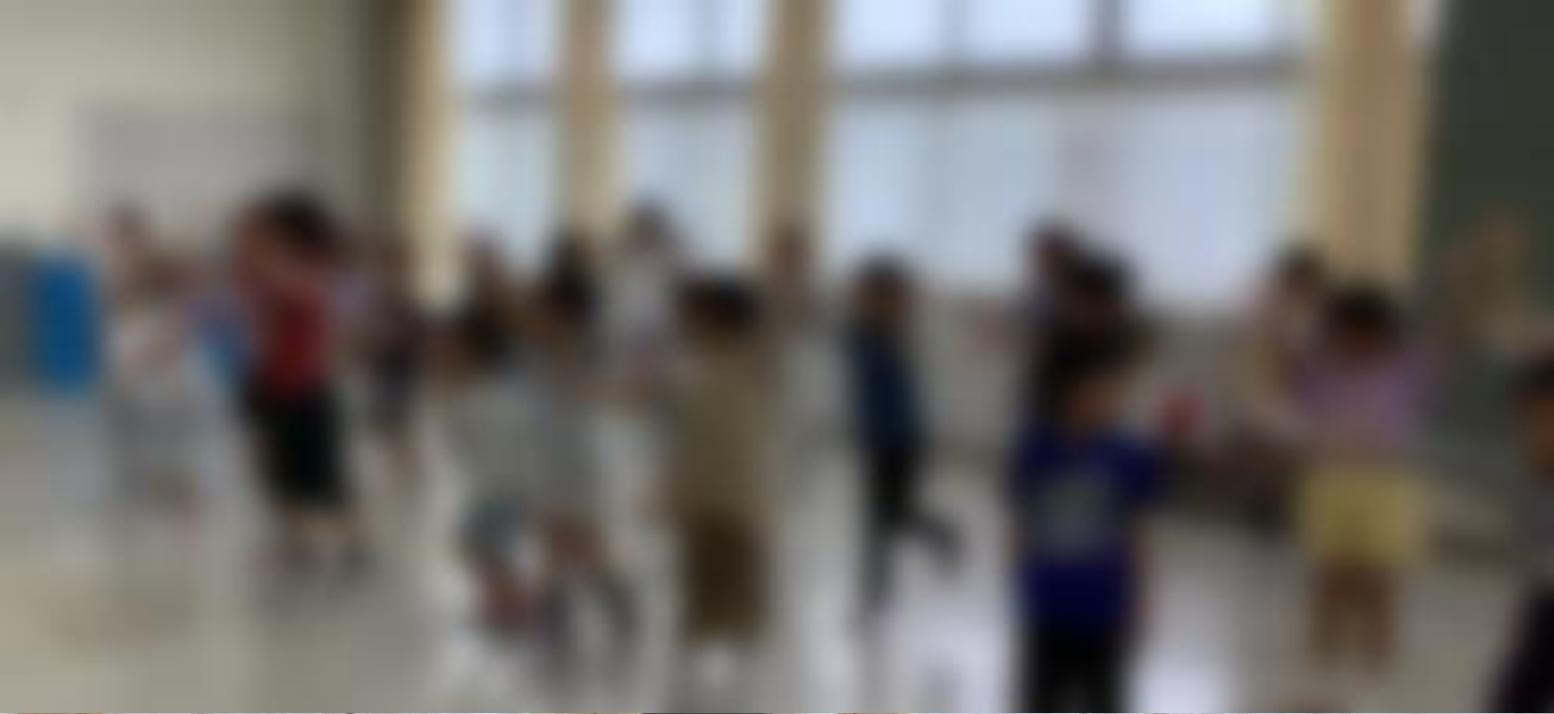
安心感

・小学校との交流を増やし、知っているお兄さんお姉さんがいることでの安心感がもてるようにする。またかかわりを通して互いのことを知る。



成長

・交流を重ねるごとに、相手について理解し、どのようにかかわったらよいかを考え、かかわったり振り返ったりを繰り返して自己の成長にもつなげられるようにする。



5/29 年長児を小 学校へ招待

- 上白根小学校の運動会の演技を年長児に見てもらいました。演技した後に、たくさんの拍手をもらって、本番に向けて自信をもって取り組むことができました。
- 演技の中で、オリジナルダンスを入れたところに注目してもらいました。「すごいね」「みんな違う踊りなんだね」という感想をもらいました。





あえてうれしかったよ。また、きてね。

小学校の参観後のお土産に、あさがおの苗をプレゼントしました。
幼稚園、保育所でもお世話してもらえると嬉しいな。



6/5

幼稚園の畑を借りてさつまいもを植えました。

幼稚園の子どもたちもさつまいもや他の野菜を植えて世話していました。

ときどき、水やりや草取りにきて、畑のお世話をしたよ。



園長先生も畑のことや植え方を教えてくれたよ。



おいもが大きくなるといいな。





ぼくたちが そだて
た なえをプレゼン
トしたら、ようちえ
んでも あさがおの
お花が さいたよ。

おはなをきれいにさか
せてくれて うれしい
な。

おはなが さいて
よろこんでくれた
かな

わたしたちも みずや
りのおせわをがんばっ
たけど ようちえんや
ほいくしょのこたちも
おせわをがんばったん
だね。

9月

年長児と5年生との出会い

5年生理科「生命の誕生」の学習からつながって、年長児との交流がスタートしました。



わあ！小さくて、
かわいい。



かわいいけど、
なにを話そう…



保育所、幼稚園へ おじゃましました

前は、年長児が小学校に来ました。学校を案内したり、少し遊んだりすると、年長児のかわいいところが、どんどん伝わってきて「もっとかかわってみたい」という気持ちになりました。

今回は、幼稚園、保育所に5年生が行って、年長児はどんな遊びがすきなのか、どんなことに夢中なのか、いろいろと知ることができました。



なにであそんでるの？いっしょに遊ぼう。

ぶどうやっ
て遊
ぶの？
教えて

この本すきななの？いっしょに読もう。



あそびの交流

5年生の子どもたちは、交流を通してもっと楽しく遊ぶにはどうしたらよいか考え、クラスで遊びの計画を考えました。

遊びが年長の子どもたちに分かりやすいルールで、楽しいものになっているか検証するため、まずは1年生と遊んでみました。そこから改善点を見出していました。当日は、前回の交流よりも5年生と年長児の距離が縮まったように感じました。



成果と課題

【成果】

- ①幼保小の交流を通して、スタートカリキュラムの時期だけでなく1年間という長期的な過程で子どもの力を育てていくことができた。5年生の子どもたちは、「年長の子たちがどういうものに興味をもつのかな。」「もっと楽しめるにはどうしたらいいかな。」と考え、試行錯誤し工夫して遊びや交流を深めていくことができた。
- ②年長児が来年入学するとき、2年生にも6年生にも知っているお姉さんお兄さんがいるということは、大きな安心につながっていくと期待している。年長の先生方から「こんなことをお願いしていいのかな」となかなか普段聞けずにいた交流についても気軽に話し、交流できるようになった。
- ③教員自身も就学前の子どもたちの様子が分かり、スタートカリキュラムをもとにしたスムーズな接続が期待できる。

成果と課題

【課題】

年長児と1年生との交流は毎年続けてやってきている。5年生との交流は今年度、初の試みである。

1年生と年長児との交流とは違う視点で、どのように交流を深めていけるか職員間の幼保小との連携をより密にしながら、互いのニーズを話し合い、これまでの育ちや学びについて情報交換しながら、子どもの思いや考えのつながりを大切にして学習や活動を考えるようにしていきたい。